

2 学年講演会開催

- ◆期 日 令和2年12月4日（金）5・6限 人文社会講演会
令和2年12月8日（火）5・6限 SS講演会（理数科学講演会）
- ◆場 所 本校 至誠ホール
- ◆参加者 2学年人文社会科学科・普通科文系 98名
2学年理数科学科・普通科理系 180名

新型コロナウイルス感染症流行で延期されていた2学年講演会が、ようやく開催された。今回聴いた研究者としての在り方や学問研究の方法や実際についての講演は、今後の私たちの探究活動に対して示唆に富むものだった。

人文社会科学科・普通科文系対象の人文社会科学科講演会では、富山大学人文学部の准教授・梅澤 礼先生に「人文学と現代社会 - 『何になるか』から『何をするか』へ - 」というテーマで講演していただいた。講演の前半には先生の直近の研究について、後半には先生のこれまでの研究についてお話しいただいた。コレラという感染症が流行した19世紀前半のフランスの社会情勢と絡めて考えることで、新型コロナウイルス感染症の流行という一見理系にしか関係できないような問題に、文系でも関わりが持てるし考え得ることが多くあることや、文系の研究が社会や科学の行き過ぎを止めることができるという文系の学問の役割に気づかされた。また、先生の歴史学と文学の領域横断的な研究が評価されたというお話を受けて、所属や専門分野にとらわれないことの重要性を感じた。生徒からの「領域を横断した研究を行うのに周りの目は気にならなかったのか」という質問には、「異端者のように思われることもあったが、自分の研究が正しいという負けん気で乗り越えて成功できた」と答えていただき、自分の本当にやりたいことをやり切る大切さを教えてくださった。



史学と文学の領域横断的な研究が評価されたというお話を受けて、所属や専門分野にとらわれないことの重要性を感じた。生徒からの「領域を横断した研究を行うのに周りの目は気にならなかったのか」という質問には、「異端者のように思われることもあったが、自分の研究が正しいという負けん気で乗り越えて成功できた」と答えていただき、自分の本当にやりたいことをやり切る大切さを教えてくださった。

理数科学科・普通科理系対象のSS講演会（理数科学講演会）では、富山大学都市デザイン学部長・教授の渡邊 了先生に「地球の中の水」と題して講演していただいた。一つ目のテーマでは「人は地球をどのように理解してきたか」では、古代ギリシャのアリストテレスなどの哲学者が行った地球についての研究の過程を話していただいた。二つ目のテーマ「太陽系の中の地球」では、どのように太陽系や惑星が出来上がったか、三つ目のテーマ「地球の中の水」では、大陸や海洋の形成でなぜ地球に水が存在しているのかについて話していただいた。岩石の中の水の存在が断層を滑らせ地震を引き起こすという説には驚きを感じた。「はやぶさ2」などで探査できる宇宙よりも、自分たちの足元の地球に関して未知なことが多いことも初めて知った。先生の講演から、基礎からじっくり調べ、自分の仮説を構築し、それに従って実験・調査に臨む姿勢の大切さを学び、ただ実験するだけでなく事前の調査や今までの研究を調べることも重要だと感じた。

